

川流清潭

（昭和九年）

劇評家。

明治九年八月一日東京生れ、昭和二十九年

十一月十四日歿（六三—一九五五）。本名義豐。別號との字、司馬江猿、

大無量、大愚生、忘路庵、春應、清潭生、豐阿彌等。心學者で劇通と

して知られ九川尻寶琴の養子。雑誌『演藝畫報』、『新演藝』記者等

を經て、大正十一年歌舞伎座監事室初代室長。

編著書『歌舞伎座案内』（編、大正十四年一月序、歌舞伎座株式會

社）、『樂屋風呂』（大正十五年十月十五日中央美術社）、（續）

風呂』（昭和二年二月二十五日中央美術社）、（文壇の）漫談・思心

とよらぬ話』（合著・本間晴編、昭和五年六月二十日田中書房）、『俳

海遊記』（濱村采藏主著、昭和五年九月十二日回六書院『道叢書』）、

『名優藝談』（編、昭和十一年一月一日中央公論社）、市川中車

著『中車藝話』（編、昭和十八年九月五日樂地書店）、尾上梅幸著

『女形の華』（編、昭和十九年六月二十日生活研究會藏版、主婦之友

社）、『六代目尾上菊五郎著』藝話』（編、昭和二十二年十月二十日改造

社）、『假名手本忠臣蔵鑑賞の手引』（河竹 繁松、澤美 清太郎合著、昭和二十二年

十一月一日歌舞伎文庫『鑑賞の手引』）、（上）『菊五郎伝話』（附録・

樂屋風呂）』（昭和二十二年七月十日石文社）、『六代菊五郎傳』（合

著、昭和二十四年十一月五日松竹株式會社演劇部編刊）、『歌舞伎座』

（合著・吉田映二編、昭和二十六年一月二日歌舞伎座出版部）、『演

技の伝承』（昭和二十一年十一月十日演劇出版社）等。